



★夜の北野で歌う—

三月からシャンソンの湯井一葉さんが「北野クラブ」で歌うことになった。湯井さんは宝塚歌劇団の出身でシャンソンの勉強のためにパリへ留学、その後、大阪ロイヤルホテルなどで活躍リサイタルも三回開いた。



湯井一葉さん

「歌手にとって一度はステージを持ちたい」という北野クラブの専属となった湯井さんは、神戸っ子の仲間入りをした以上はここをホームグラウンドとして神戸で歌って行きたいと意欲満々。お客さんの評判も上々で、この秋には北野クラブでリサイタルを……とも考えている。

ジルベール・ペコーに心

酔し、「ろくでなし」「枯葉」

などを得意とする湯井さんのステージは毎週月・水・土曜日の六時、七時十分、九時、十時十分の四回。カルテットやコンボをバックに軽やかに歌うそのステージは新しいファンをつかんで行くだろう。

ナイトクラブ「レストラン」北野クラブ、生田区北野町一丁目六四番二一—二五—

★クラブ「飛鳥」が移転

クラブ「飛鳥」の新店舗がこのほど完成し、四月五日、新装オープンパーティーが開かれた。

新装なった店は、これまでとはガラリとイメージを変え、スマートな大理石造りで、二階へは優美な螺旋階段が続き、シャンデリアがまばゆく輝き、神戸らしいスマートな感じで、神戸の夜の老舗らしい気品が漂っている。

杯をかたむけながら、ママや店の女の子と会話を交

わす。気のきいた言葉のやりとりが何よりの酒のさかなとなる。

さっぱりとした気性のママは仲々のインテリで、ファンも多く、二十年以上の実績がものをいっている。

神戸市生田区中山手通り二丁目一七 番三二—七六—七

★「山の手」が八周年

スナック「山の手」が三月十六日に開店八周年を迎えたが、四月五日夜、記念パーティーが開かれた。



ママを囲んで

この日は日頃からの「山の手」ファンが百二、三十名がお祝いにかけつけ、こじんまりとした店内には談笑の絶えることがなく、大盛況であった。

「山の手」では毎週火・木・土曜日の夜八時三十分から柴田圭のピアノ弾き語りが入り、雰囲気盛り上げている。

スナック「山の手」

神戸市生田区中山手通り二丁目 番二二—三六—三

●神戸うまいもん とドリンキング

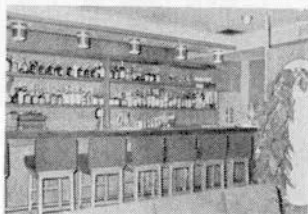
クラブ

さち

神戸市生田区中山手通り二丁目 七五 伊藤ビル2F 番三三—一七—二〇

クラブさちのママは花隈育ち。そのママの気質が店の雰囲気によく出ていて、何となくほんやりとしたところがある。

店の規模はそう大きくはないが、こじんまりとしたなかに気取らない気さくな感じのママがいていつも気楽で和やかに飲



雰囲気のある店内

めるのが嬉しい。

店の場所も生田神社西門前で、山と海とに囲まれた神戸のほぼ真ん中。国際港都神戸にふさわしいだけの優雅な雰囲気を持ち、しかも、良心的なお値段で楽しめるクラブである。

PM 6 / AM 12

日曜祭日休み

潜り戸を通して
“花”のおふくろさんの味を



●今月のおこんだて●

花そうめん 400円
たかのり弁当 900円
木の芽あえ 450円



和風季節料理

花

11:30A M~8:00P M 月曜日定休
さんプラザ地階 ☎ 331-0087

よいこのお友たち
水あそびの仲間がそろったよ!



おもちゃの
カメヤ

三宮方面でのお買物は…
さんちが店 ファミリータウン ☎ 391-4045
三宮店 センタープラザ ☎ 331-4969
元町方面でのお買物は…
元町店 元町通3丁目山側 ☎ 331-0090
パンプ店 元町通1丁目二家前 ☎ 391-0768
神戸駅前方面でのお買物は…
サンこうバ店 神戸駅前地下街 ☎ 351-6002

おすし
てんぷら



崇
彌



本店 大丸前・三宮神社東
TEL(331) 57732
(毎週水曜日休み)
支店 さんちか味ののれん街
TEL(391) 5233
(第3水曜日休み)

営業時間
A.M.11.30~P.M.9.00

北野町の坂道のほりにある目立たない小さなサロン神戸時代。
このサロンから新しい時代の波をと思っています。



●神戸時代ギャラリーのごあんない

- 5月上旬まで 現代フランス版画展
- 5月末まで フランス絵画ポスター展
- 6月より 松谷武判展<在>り>

SALON 神戸時代

神戸市生田区中山手通 1 丁目28
モンシャトーコトブキビル 1F
TEL. 2 4 2 - 3 5 6 7



日本料理の店

日本海直送の

活魚

日本海でとれた新鮮な旬の魚を
直送便で……その魚を皆さまの
ご注文に応じて熟練の調理士が
盛りつけます。

料理

お1人さま **3,000**
～ **6,000円**



日本料理の店



妻娑羅

ばさら

電話 (078) 321-6363

神戸・三宮阪急西口北側レインボープラザ1・2F

神戸百店会
だより



★世界一の美女と真珠
やっぱりよく似合う

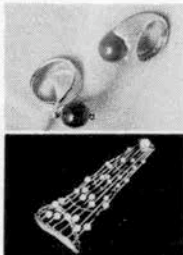
75年度ミスユニバースのアンネ・マリ・ポホタモ嬢が来日。四月三日、ミスユニバースの王冠をつくつている田崎真珠を見学した。憧れの日本、しかも真珠工場の見学とあつてブロンドを風になびかせながらニコニコ顔で穴あけ、真珠の選別などの作業を見学。新入社員研修の場では「ミナサンコンニチワ」と日本語であいさつをするなど愛嬌をふりまいていた。その彼女も真珠のネックレスをプレゼントされた時は、大感激。真珠のような涙を流す一幕もみられ、神戸の休日をも存分に楽しんだようだ。



真珠を手にとり

★オリジナルの宝石を

四月九、十日と大阪ロイヤルホテルでミキモト春の特別展示会が盛況のうちに行なわれた。今回は「自分だけのジュエリー」という新しい分野のために、各界で御活躍の十六人の方々にユニークなアイデアを披露していただくといった変わった趣好。宝石はそれ自身、個性豊かな存在であるのでオリジナルティの高さをもっと見通す時代ですね



(上) 石井よし子さんデザインのブレスと指輪 (下) 市川染五郎さんのラビストラジュールリング

★TVドラマ「花ぼうろ」に不二屋の家具が。

毎週月曜日夜十時から始まる連続ドラマ「花ぼうろ」(主演・島田陽子)にトアロードの不二屋の家具が登場している。



「花ぼうろ」の一場面

主人公の部屋のインテリアに使われているのが、全部不二屋さんの家具。父母が娘のために心をこめてこの部屋をつくりあげたという設定だけに、ヨーロッパのクラシックな雰囲気と白い色が何とも女の子らしい家具が選ばれている。

★初夏に浜辺の味と香りをおとどけします

ニューポートホテルでは味覚の散歩シリーズと題して、この季節にふさわしい特製ディナーを企画しました。潮騒と名付けられ、白魚のカクテル・スープ・海老の磯焼き・サラダ・デザート・ロール・コーヒーという豪華なメニュー。15Fの回転レストラン「鳴門」で御賞味なさってみては。



特製メニュー「潮騒」

お1人様 ¥4,800

期間 5月31日まで

● ショップトビックス

★そろそろのどが乾いてくる季節にニュートキーでは、四月十六日(金)より、さんプラザビアガーデンと三宮ビル屋上ビアガーデンがオープン。会社帰りに生ビールをキューツと一杯ノ……こたえられませんか。疲れもいっぺんに吹飛んでしまおう。多勢の時にはビヤ樽サービスでどうぞ。

★センタープラザ地下一階のベル直営店「APPLE」が、四月十日オープンしました。アクセサリー、雑貨、インテリア用品などあなたのお部屋をより美しくしてくれるもので一杯です。

★神楽ビル7階、ブランドウブランの今月のチーフサゼッションメニューをお知らせしましょう。エスカルゴブルゴーニユ風はワイフ付で一〇〇〇円。舌ひらめ蟹ロケケ話八〇〇円。若鶏煮込みインドラ風七〇〇円。仔牛のカツレツミンド風一七〇〇円。サロリンステーキフレスティエール二五〇〇円などです。チーフが自信をもってお勧めする味です。

★この春はブラウスが見直されています。ジョーゼットの花柄のドレスシーなブラウスから揚抑の格子のブラウスといったスपोर्टイなものまで、TPOに合わせてうまくスカート、パンツロンと組み合わせおしゃれを楽しんで下さい。ベニヤでは、豊富に揃えています。あなたのお気に入りが見つかることとしましょう。

★自然の素材が人気を呼んでいるこの夏、ベッ甲ブームが静かにおこっています。NOWな女の子なら細いベッ甲のブレスレットを2・3本まとめて腕にいかがでしょう。太田ベッ甲には、若い人向けの各種アクセサリーがあります。お値段だってそんなに高くはないんですよ。

ポケットジャーナル



★彫刻のある街づくり

ポートアイランド北公園に、五月八日いるか噴水彫刻がお目見えする。未来へ向かって前進するエネルギーを石という動かない素材と噴水という動きのある情景とで表現し、華やかな躍動感のあるもの。製作は環境造形Q。(山口牧生・増田正和・小林陸一郎)



ナス時計が五月七日誕生する。セリザフ70周年を記念しての設置で制作は新谷瑛紀。美の女神が時計を抱く豊かな作品である。

★みなさんどうぞよろしく

三月二十九日、元町犬丸



木の実を抱いたリス君

神戸店の東側歩道に石彫りのリス君五匹が、三宮ライオンズクラブより寄贈された。同クラブの結成十五周年を記念して作られたものである。木の実を大事そう



子供たちによる除幕式

にかかえ、座っているリス君はなかなかの愛敬者。街の美化運動の一つとして、このような潤いは、今後ともどんどん増えていってほしいものである。

★市民が気軽に利用できる

東灘文化センターオーブン阪神魚崎駅から北へ五分三階建てのレンガ色の建物が東灘文化センターです。市民の教養向上のための学習や、文化活動を通じて人間的な触れあいを深めるとともに余暇を有効に活用する場として建てられたものです。この東灘文化センターには、図書コーナー、婦人コーナー、集会ホール和・洋会議室と児童館が設けられ市民なら誰でも利用できます。



東灘文化センター正面

神戸市では、このセンターを中心に図書館、公民館や体育館など区内の各種社会教育施設相互間のコミュニティの輪を広げ、社会教育の充実に向けていく計画です。開館は午前九時と午後九時、休館日は毎週月曜日全日と、日曜日の午後六時以後、年末年始。

★県下初のまちなみ保存連絡会結成

三月二十七日午後一時から兵庫私学会館で「兵庫歴史のまちなみ連絡会」が開

誕生日 ありがとう



「誕生日ありがとう運動」とは

この運動は神戸で昭和四十年に生まれて全国に広まっています。

(誕生日を有意義に)

みなさんは、誕生日をどのように迎えていらっしゃるでしょうか。

誰にでも年に一度めぐってくる誕生日を機会に、一人一人のかけがえのないいのちについて思いをめぐらせ、福祉の問題を考えましょう。この運動は、特にちえおくれの子どもたちの問題を中に考える、あなたとわたしたちの社会啓発運動です。

(運動のねらい)

ちえおくれの問題について

◎正しい知識の普及

◎意識を高める

◎手近かなことの実行

の三つを通して、運動を進めています。そして、みんなが手をつないで、偏見や差別のない明るい社会の建設をめざしています。わたしたち一人一人の力は小さくても、みんなが力を合せて、福祉を高めようという草の根福祉運動です。

◇運動参加の方法として、誕生日祝いの費用の中から、この運動参加のために意欲的に節約して献金してください。金額は一口百円でして、各家庭でこの問題について話し合ってください。

◇献金は、名前、住所、誕生日等を書いて、郵送(定額小為替、切手可、現金同封不可)で本部へ、すぐに参加カードを送ります。

◇献金は、社会啓発のために使用させていただきます。

誕生日ありがとう運動本部
神戸市芦屋区御幸通八十一一六
神戸国際会館一階国際会館の前
電話二五一八六一一内線三二六

かれ兵庫県下で初の街並保存の連絡会が結成された。

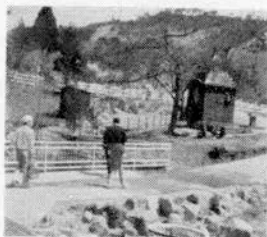
現在、全国各地で歴史的な街並や景観が都市化の波によって急速にその面影を失ないつつある。神戸でも二年前に「北野界わいを守る会」(宇津宮隆夫代表)が結成され、北野を中心とする街並、景観の保存に取り組んでいるが、今回の連絡会には参加よびかけ団体として県下からは北野、赤穂、竜野、篠山、築地(尼崎)の他、大阪「中之島を守る会」及び「富田林寺内町保存会」の各代表が出席しそれぞれの地域が直面している様々な問題について意見の交換が行われた。

北野界わいを守る会
神戸市善合区御幸通三丁目一〇〇
宇津宮建築事務所気付
電話〇七八〇二二一六七〇五

★神戸広告マッチ組合より
神戸まつり記念マッチ登場
神戸広告マッチ組合(吉田勤会長)は、共同事業の一環として、郷土の画家、川西祐三郎画伯による記念マッチを制作し、各界に無料配布することになった。マッチはケミカルシニューズと並ぶ地域産業として誇れる業界。神戸まつりにちなんでテーマを神戸の海山街をモチーフとした素晴らしい版画が期待できそうだ

★行楽シーズンに先がけて
六甲山牧場衣替え

四季を通じて家族連れや若者のグループでにぎわっている六甲山牧場が、四月一日より大幅にモデルチェンジした。この牧場のもつ恵まれた自然景観と山岳牧場としての豊かなポテンシャルティを高め、都市住民のための健全なリクリエーションの場、特に人間と動物と自然のふれあいの場となっていくてほしいもの。これからは神戸の市花であるあじさいの色づくシーズンとなり、ますます多くの利用者が予想される。
入場料 大人一〇〇円



改装された六甲山牧場

★歌手内藤国雄デビュー

以前から内藤国雄氏(日本将棋連盟棋士・九段)の歌のうまさは定評のあるところだったが、このたび五月一日、CBSソニーから「おゆき」「祝盃」というレコード(五〇〇円)を発売。プロ歌手としてデビューし

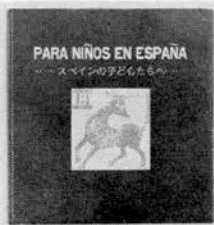


内藤国雄さん(上)とレコードジャケット(下)

た。四月十五日大阪北新地「ディック」での新曲発表会は、出席者全員のご自慢大会をやるなど、ユニークなものだった。「有線などにもどんどんリクエストして」と内藤国雄氏も大乗り気である。

★かわいかわい
版画集発刊

画家の徳永卓磨さん(灘区在住)が「スペインの子どもたちへ」という版画集を出版した。フラメンコが好きだという徳永さんは、七年程前にスペインへ渡り一年間暮した。その後も夏の休暇を利用してはスペインへと、たいへんな物れこみよう。そのスペインの子供たちへ日本の風物をと、24頁にわたって白地をおもいっきり生かした画面の版



「スペインの子供たちへ」

美術
ガイド



★兵庫県立近代美術館
特別展「屏風と版画」

5/11-5/30

★南蛮美術館

南蛮紅毛美術展

4/3-6/6

★日鶴美術館

出光美術館名品展

4/29-5/30

★普雲美術館

書画の名幅と茶道具展

3/10-6/13

★さんちか広場

ヤマフェアー

5/7-5/11

★第二次交際会展

5/13-5/18

★宗龍書道院展

5/20-5/25

★ヤングサマー

5/27-6/1

★ギャラリーさんちか

神戸市民美術教室日本画展

5/7-5/11

★現代彫刻作家展

「花百選」

5/13-5/18

★第30回兵庫美術家同朋展

5/20-5/25

★そころ百貨店美術画廊

松本晃光日本画展

4/29-5/5

★日原昇油絵展

5/7-5/12

★井上速男油絵展

5/14-5/19

★古刀から現代刀まで

「日本刀剣展」

5/21-5/26

★江戸初期より明治まで

伊万里展

5/28-6/2

★大丸百貨店四階美術画廊

山本貞・山本文彦俊英二人展

4/29-5/4

★備前秋春秋会展

児玉幸雄神戸を画く新作展

5/5-5/10

★中国古陶名品展

甲陽会日本画展

5/20-5/25

★KCCギャラリー

神戸大学22回生展

4/30-5/6

★第9回兵庫県写真作家協会公募展

5/7-5/13

★第7回小さな子供供の詩書展

5/14-5/20

★明石短大卒二人展

5/21-5/27

★神戸商科大学写真部展

5/28-6/3

画集、とつてもかわいいた本
五五〇円。

お問い合わせ 徳永卓磨 神戸市灘区
三原中町一丁目ノ四 番八六一
三四六九又は月刊神戸っ子まで

★源氏をうたう筆の会

筆曲の小倉万智井さん
(灘区畑原通五ノ三ノ一五
63才)が、山田流の師籍三
十年を機に「筆苑会」を、
二世の美紗能さん(39才)
と共に、記念演奏会を、神
戸文化ホール(小)で五月
二十九日午後二時半より開
く。△一五〇〇円▽

小倉万智井さん(上)と美紗能さ
ん(下)親子



花時計



前略―暴走族さま

また、神戸まつりがや
つてきた。神戸カーニバ
ルとみななどの祭が合併さ
れて「神戸まつり」にな
って今年が6回目である
第一回目の「神戸まつ
り」は時に神戸開港百年
にもあたったこともあつ

今回は「源氏をうたう」
と「古今和歌集」の作品を
集めて演目し、中能島欣一、
慶子師を迎えて、「柴式部」
「葵の上」の他、「鶴寿千歳」
では欣一師の珍しい三弦が
きけるというプログラムだ
★野川由美子と萩尾みどり
神戸港でロケ

四月から始まったNHK
のテレビドラマ「花くれな
い」(月曜夜8時)の神戸
ロケが三月十七日、中突堤
から出る港めぐりの遊覧船
の上で行なわれた。
「新しい女の生き方を描い
た」(和田浩明ディレクタ
ー)このドラマ、舞台は太
阪と京都が中心で神戸との
関わりはほとんどないが、
この日のロケは、深雪(野



「花くれない」の船上ロケ

川由美子)が家出した京都
の染屋の嫁・光子(萩尾み
どり)に神戸を案内するシ
ーン。少し風が強くて寒い
神戸港だったが、初めて神
戸に来た萩尾さんに「あれ
が六甲山よ」、リラックス
する野川さん、リラックス
したムードの中で撮影は進
められた。放映は五月三十
一日夜八時。

て大変な賑わいであり神
戸まつりのペースが出来
た。元来「みなとの祭」
が神戸の代表的な祭であ
った。ところが都市交通
の事情と相俟って規模が
縮少され、次第に面白く
ない祭りになり、市民か
らも見離され、官製のお
祭りといったレッテルが
貼られ、時代行列を迎え
る人さえいなくなつた。
そこに、市民が主役だ
という形で華やかに登場
したのが神戸カーニバル
市民に回を重ねるたびに

本格的な賑わいを見せは
じめ、みなとの祭をし
いだ。そして神戸まつり
が誕生した。―その神戸
まつりもなぜか縮少ぎみ
になった。昨年の神戸ま
つりに暴走族が名実とも
に大暴走―その結果であ
る。が、暴走族のエネル
ギーをはねかえすだけの
祭のエネルギーがなくな
つた、そう見える。
この辺で神戸まつりも
出直しかも知れない。そ
して、これこそ創られた
祭の宿命なのだ。△▽

●KOBÉ POST

★神戸市経済局長の玉田曉昌氏は
4月1日より消防局長に。後任は
宮岡寿雄氏が就任されました。

★神戸地下街から3月24日の定時
株主総会取締役会で、代表取締役
宮崎隆雄、代表取締役専務取締役
重村英治、常務取締役森本泰好、
取締役西崎崎、栄谷貞雄、森崎之
助、谷植繁光、多田政文(新任)
監査役岡崎忠、狩野孝氏が選ばれ
就任されました。

★ケチ本さんと吉本晴彦氏が、
大阪駅前「大阪マルビル」を4
月16日にオープン。吉本管理事務
所と吉本土建物KKの事務所を
四月五日から移転されました。新
住所大阪府北区梅田4番地(大阪
マルビル31F) 番〇六(三四一)
一一八七(代表)

★宝塚歌劇団では4月1日から定
休日宝塚大劇場並びに各事務所
毎週水曜日を実施。他に1月1日
と7日、3月20日、4月7日、4
月28日、5月5日、7月20日、8
月31日を春夏秋冬のお休みにと
のことです。

★神戸音楽友の会前事務局長の
寺井昭子さんが、俳優座の武内享
さんと結婚され、新住所のお知ら
せがありました。〒168東京都
杉並区上高井戸一ノ二二〇八
番〇三三四四(一三二)

★舞台監督の中倉敏博さんが転居
されました。新住所〒662西宮
市老松町一五〇三二二〇二番〇
七九七(七二)三三三九

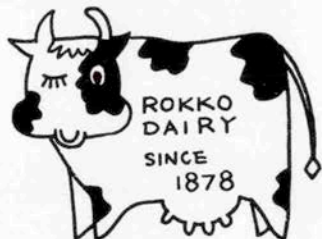
★大丸前の靴のヨシオカの吉岡潔
さんの長男達彦さんとが、本間潔
さんの長女千恵さんと4月30日オリ
エタルホテルで結婚され、ヨーロ
ッパへ新婚旅行、5月15日にオリ
エタルホテルのばらの間で披露
パーティを開かれます。おめでと
う!

★神戸を愛する山川勝彦さんが、
神戸のスケッチ展を4月19日、24
日迄大阪今橋画廊で開かれました

フレッシュな味。

神戸生れの六甲牧場

★喫茶店・洋菓子店に！



牛乳

生クリーム

ケーキ用クリーム

コーヒー用クリーム

各種アイスクリーム

ソフトミックス

株式会社
六甲牧場

神戸市灘区篠原南町 6丁目1-25 〒657 (078)801-6000

★ご用命しだい営業マンが直ちにお伺いします。

世界最高の品質を
誇るアラガワの支店

いろいろなパーティーを
ご予算に応じてどうぞ



レストラン

砂時計

正午 ~ 夜9時まで

(年中無休)

生田区山本通1丁目35

東洋ハイツ1階

TEL 241-1857

ブリュッセルへの旅

伊藤 誠 〈神戸新聞文化事業局第一部長〉

予定ではもつと後にするつもりだったブリュッセルを
つい書き始めてしまったのは、最近、中野孝次氏の本項
と同じタイトルの書物が出版されたこと、もつともそれ
だけでは同好の士あり、ぐらいいの気持ちだったのが、読
み進んで「……東京でわたしを待っているうつとしい関
係のことは頭に浮かばず、わたしのみわりから一人ずつ
消えていった者たちが、いまは親しく思い出される。だ
いたい今度突然旅に出たのも、身近な一人の知人が死に

自分の仕事がかかりいやになって飛びだしてきたよう
なものであった……」
といった著者の感慨

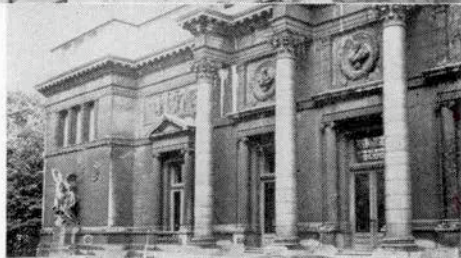
に触発されたせいである。似たような年齢、親友の死と
いう似たような状況が、どうやら共鳴を強くさせたよう
だが、思い切ってヨーロッパへ旅立ち、何度目かのブリ
ュッセル対面を果たされた中野氏に比べると、当方は余
りにも意気地ないけれども、せめて頭の中でもブリュ
ッセルへの旅をなぞってみたい。と、何となくせきたて
られる思いがしたのである。

ピーター・ブリュッセルは「百姓ブリュッセル」とい
う呼称を持つベルギーの画家である。存命していた十六
世紀でいえば現在のオランダと一つだったネーデルラン

ドの画家だ。日本では「ピーテル」とも「ペーテル」と
もあるいはブリュッセルとも言われたりしている。
生年ははっきり分らない。彼が画家とし
て組合に登録された記録などから推測して、一
五二〇年から三〇年の間、どうやら二五年あた
りがそうらしい、ということになっている。二
十代半ば過ぎにフランス、イタリアへ旅行し、
当然のことながら絵を勉強、帰国してからポツ
シユ風のデッサンや版画の下絵を描いてデビュ
ーした。ポツシユというのは、彼が生まれる十
年ぐらい前に亡くなった同国の、いわば先輩画
家である。非常に幻想的な、しかもグロテスク
なムードの濃い、悪夢のような宗教画を描いて



上：「雪の山道を帰る獵師たち」（ウィーン美術史美術館所蔵）
下：ウィーン美術史美術館



上：「ベツレヘムの人口調査」（ブリュッセル王立美術館所蔵）
下：ブリュッセル王立美術館

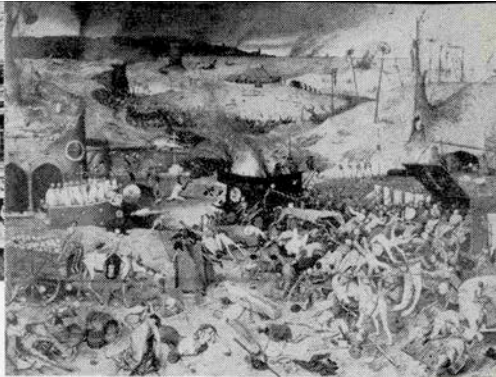
んだのはその先見を讃えるのであった。宗教をテーマとしたものや、王侯貴族の肖像画のみを絵画だと考えていた時代の「百姓ブリュッセル」の呼び名は、絵の内容からして二流、三流としか評価し得なかった世間のさげすみをも含んだ声であったろうが、今や親しみと敬意のこもった愛称に変わったわけである。

それが人気のあった不思議な画家だ。評判が良かっただけに版画の出版元などはボッシュの後継者が欲しかったのであろう。ブリュッセルは、その要請に答え得る技術を持っていたわけだ。もともと、やがてボッシュ離れをし、彼独自の画風を確立したことはない。その特色を一言で表現したのが「百姓ブリュッセル」の通称なのである。

ブリュッセルの絵の題材を見ると、ざっと二つに大別できる。一つは聖書から取材した内容の系列、他は現実の農民生活を描いた内容の系列である。そして前者にはボッシュの影響を受けた幻想画が含まれるし、後者にはことわざを基底にした庶民の風俗画や人物のいない風景画が包含される。ここで特筆されるのは、それまでの画家が全く対象としなかったごく平凡な人間の日常生活を、特に農民を題材として彼が描いたことだ。自然の風景を単なる背景でなく独立した画材としてとらえた意図も、同じところから発している。当時、美術用語としてのリアリズムという言葉などもろん無かったけれど、後年十九世紀に入って現実を写すことの重要性が強調され始めた時、彼を「リアリズム絵画の先駆者」と呼

さて、ブリュッセルを観るなら、まずはオーストリアのウイーン美術史美術館であろう。この、彼の油絵十五点の収集はまさに圧巻。現在ブリュッセルの油絵は世界中で四十数点しか存在していないだけに約三分の一を所蔵していることになる。しかも、いずれも彼の作品としては大作の部類に入るもの。ここに次ぐコレクションが、ブリュッセルにとつてはいわば地元のベルギー・ブリュッセル王立美術館の五点ということからしても、ウイーンがいかによばらしいかが分かるだろう。パリのルーブル美術館をはじめブリュッセルを所持するという世界の大美術館が、たいてい一、二点だ。例えば、ウイーンの、ブリュッセルだけが列んだ一室に入った時、ああ遂にやって来た、やっと待望のブリュッセルに出会えた、と一種の安堵感を覚えたものである。実は、美術担当記者として著名美術館を見学し取材するという一九六七年の第一回訪欧時に、私はここを訪れることが出来なかった。他に二、三の仕事を掛け持ちし、滞在日数にも限りのある旅だっただけに、残念ながらスケジュールから割愛せざるを得なかったのだ。一度に欲はっても仕方がない、その内にまた機会も出来るだろう……。が、他の幾つかの美術館で少数のブリュッセルに出会うにつれ、ウイーンがますますあこがれの地になっていった。そして、やっと六年後に実現したのである。十五点のブリュッセルに囲まれて、私は全く「言うことなし」であった。

美術作品が、ある一定の場所へ集まってくるについて



右：「死の勝利」(プラド美術館所蔵)

左：マドリッド・プラド美術館



は、執念にも似た一途にほれこむ人の存在が絶対に必要だと思われる。特にブリューゲルの場合、当時人気があったとは言え決して一流と認められなかった画家だけに、王家などが購入することは稀だったろう。パトロンとして四人の名前が残っているが、その中の一人友人ヨン・ヘリクが現ウイーン・コレクシヨンの

ほとんど元・所有者だったとされている。裕福だった彼が財政逼迫して絵画コレクシヨンを全部にアントワープ市へ抵当に入れ、市はやがてこの地方の総督としてやって来たハプスブルク家のエルンスト大公に献上。大公はどういうわけかブリューゲルが気に入って(こ

ニューヨーク・メトロポリタン美術館にあり、残る一点は行方不明という状態。ロンドン・ナショナル・ギャラリーの「東方三博士の礼拝」も元ウイーンの所蔵品だったが、どういふ経路でか同ギャラリーが購入したのは今世紀一九二〇年のことだ。それにしても、ウイーンのものには世界屈指のブリューゲル・コレクシヨンに間違いない。

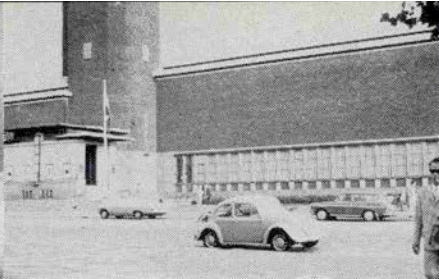
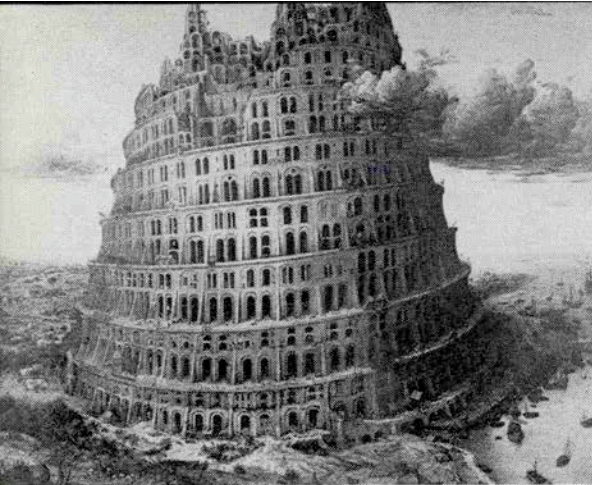
ブリューゲルの魅力は何なのだろう。

日輪をバックにした大天使と化け物のような反逆天使たちとの闘争の図がある。悪しき者の糾弾、罪ある者は地獄へ落ちるその教え。(「反逆天使の墜落」ブリュッセル王立美術館) 骸骨に象徴される死神の軍団が人間世界を侵略しつつある図がある。いかに栄耀栄華をほしいままにしても人間の行きつく先はすべて死。その死の化身は積極的の人間どもを亡ぼしにかかっている。(「死の勝利」スベイン・マドリッド・プラド美術館) とともにボツシュの流れを汲む悪夢のような幻想世界の定着だが、その地獄図絵と見まごう奇つ怪な画面の、これはまたグロテスクな美しさはどうだ。反逆天使の醜さに自己の内面を投影させられ、骸骨軍の進撃に現実生活の安易さを思い知らされる人は多からう。

天に向かつて巨大な塔を築いてはいるが、その完成の覚束なさ。(「パベルの塔」ウイーン美術史美術館、オランダ・ロッテルダム・ボイマンズ美術館) ギリシヤ神話のイカロスが太陽に近づき過ぎ翼を固めたロウが融けて海へ墜落するが、周囲で働いている農夫や釣り人たちの無関心なこと。(「イカロスの墜落」ブリュッセル王立美術館) 人間の小さかしさに対して自然の存在や運行は無限と思えるほどに大きい。壮大な構図とおおらかなしらすえ。

世もブリューゲルを至極愛好、ということでもかなりの数がウイーンへ集まったようだ。ブリューゲルにとつては幸いなことであつた。もつとも後には出て行つてもいるようで、例えばアントワープ市献上品の中の「十二カ月図」シリーズ六点のうちウイーンに現存するのは三点。他の二点は現在チェコスロバキヤのプラハ国立美術館と

彼方の丘目ざして群衆が駆けて行く。丘の上には早や人の輪が出来て何か事態が起きるのを待っている。何を? 画面中央人ごみにもまれて十字架を負つたキリスト



右：ロッテルダム・ボイマンス美術館
左：「バベルの塔」(ボイマンス美術館所蔵)

が小さく見える。きょうは処刑の日なのだ。『ゴルゴタの丘への行進』ウイーン美術史美術館)雪の降り積もった村の集会所へ大勢人が詰めかけている。何だろう？人口調査の届け出で、そこへ急ぐ人群れも幾つか見える。その中の男女一組が、引き連れた牛とロバに象徴されるマリアとヨセフ。(『ベツレヘムの人口調査』ブリュッセル王立美術館)聖書の中の著名場面が、主人公であるキリストやマリアを特別視せず、全く群集の中の一人の男、一人の女として描かれている。事件を傍観する作者の冷静な目。

雪の山路を猟犬を連れて村へ下る猟師たち。眼下の池では大勢の小さな人影が氷すべりを楽しんでいる。(『雪景色の中の猟師たち』ウイーン美術史美術館)決して美人ではないが健康で

福々しい新婚婦を中心に村の結婚披露宴が開かれている。新婚を一人にして新郎はどこに居るのだらう。(『婚礼の宴会』ウイーン美術史美術館)一方は大自然の懐ろに



抱かれて、きびしいけれども心安らぐ風景。他方は厚い人情に囲まれて、貧しいけれども心暖まる風景。ブリュッセルの作品に一貫しているのは、人間はまことに卑小な存在だという姿勢である。彼の作品の前に立つと自然に心が落ち着いて行くのは、所詮われわれは小さな、つましやかな存在に過ぎないということをしみじみ納得させてくれるからだろう。地位や名譽で多少起伏が世間に出来ても、あるいはたとえ大きく歴史を動かしたとしても、所詮人間の帰るべきは大地、自然。四十数歳で亡くなった『百姓ブリュッセル』は、庶民の日常生活を透して人間の心の在り方を描破した。

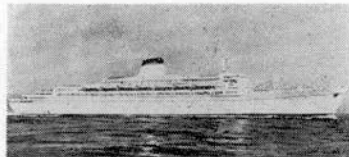
美術館の作品を思い起こすと、そこを訪ねた時のささいな出来事がふつと浮かんで来る。美術館横の居酒屋風レストランで、食事中にからんで来たウイーンの酔っ払い。出立便に間に合うようにと美術館を出て飛び乗った料金の四倍もする紙幣を取り込んで遂に釣り銭を戻さなかったブリュッセルのタクシー老運転手。特急電車で車中一時間向かい合わせていたものの夏風邪の鼻水が止まらずめいわくがられたロッテルダムの若い尼僧さん。せっかくながらまで来てくれたのに話が進まず残念だったマドリードのフラメンコ・ダンサー……等々。あの

人たちは今どうしているだろう。それぞれの生活を真摯に送っているに違いない。亡くなったお年寄りもいるだろうか。元気で恐らく二度とは会えない人たちだ。もう、また行ってみたいものだ。ブリュッセルへの旅に。

★神戸っ子 トラベルコーナー

神戸っ子海外旅行ご案内

- ★ **レオナルド・ダ・ヴィンチ** (イタリア豪華客船
33,500トン) 地中海の旅
＜7月6日出発。パリ、ニース、モナコに立寄り、ジェノアより乗船＞
費用/¥940,000 (船室により費用が変わることがあります)
定員/10名 ファーストクラス、シャワー付2人部屋
スケジュール
7月10日 ジェノア発
7月11日 バレレモ(シシリー島)着
7月14日 マディラ着
7月15日 ラスパルマス(キャナリーアイランド)着
7月16日 カサブランカ(モロッコ)着
7月20日 ナポリ着
7月21日 ジェノア着



イタリアの豪華客船「レオナルド・ダ・ヴィンチ」
お問合せ、ドットウェルトラベルサービス神戸。
TEL 078 (251) 0021。担当島村

KE 小泉パーティのご案内



毎日好評の楽しいパーティ風景

- ★ **独立の地を訪ねるアメリカ10日間**
＜7月23日(金)～/7月30日(金)～/8月6日(金)～＞
費用/大人 ¥488,000 小人 ¥440,000
東京→ニューヨーク→ポストン→ワシントン→
ニューポートニューズ→ウィリアムズバーク→
リッチモンド→シカゴ→ロサンゼルス→東京
全行程3食付。ただし終日自由行動日の昼食を除く。
- ★ **サンフランシスコ6日間**
出発日/6月11日(金) 大阪発
費用/¥198,000
- ★ **ハワイ6日間**
出発日/6月22日(火) 大阪発
費用/¥138,000
- ★ **好シーズンのヨーロッパバリ8日間**
出発日/7月3日・6日・10日
費用/¥238,000
- ★ **カナダ9日間**
出発日/8月7日・8月12日 大阪発
費用/¥378,000
- 日本旅行神戸中央海外旅行センター 078・321・1310
- ★ **ロスアンゼルス6日間**
日程/6月18～23日
大阪→東京→ロスアンゼルス→東京→大阪
40名・食事なし
費用/¥168,000
- ★ **カナダ7日間**
日程/6月1日～7日
東京→バンクーバー→ジャスパー→バンフ→
バンクーバー→東京
費用/¥268,000
- ★ **ハワイ6日間**
日程/6月25日～30日

- ★結婚を希望する男女に交際の場を提供し、良きパートナーを見出すお手伝いをいたします。
- ★会員相互の理解を深め、親しみを増すための家族ぐるみのパーティを開催いたします。
- ★結婚に関する一切のコンサルタン
ト、カウンセラーにも応じます。

- 大阪→東京→ホノルル→東京→大阪
40名
費用/¥138,000
近畿日本ツーリスト株式会社 (078)391-2401～3
- ★ **朝日友の会特別企画**
アロハ・ハワイツアー 4泊6日コース
大阪より¥145,000円
出発日/5月13日(木)・5月21日(金)・5月25日(火)
大阪→東京→ホノルル→東京→大阪
お誘い合せグループでお申し込み下さい。
朝日海外旅行株式会社
- ★ **モスクワ・レーニングラード・リガツアー**



日税/7月23日(金)～8月6日(金) [15日間]
費用/¥388,000 ホテルファーストクラス
東京→モスクワ→レーニングラード→リガ→
モスクワ→ハバロフスク→ナホトカ→客船「プリアム
ムーリエ号」→横浜
暑い日本の夏からしばらく解放され空気と空
と緑の美しいソ連での15日間は参加される皆様
に満足して頂けるものでしょう。
日ソ協会兵庫支部連合会 (078)331-6093

お問合せ、お申込みは神戸っ子トラベル係へ
TEL 078 (331) 2246

入会金及び年会費は…

- ・入会金 10,000円
- ・年会費 10,000円

(必要に応じて調査費35,000円をお願いすることもあります)

「ごあんない」入用の方は下記までご連絡下さい。

神戸市葦合区浜辺通り6丁目3-13
ニューポートホテル1131号 ☎078-252-1380
小泉パーティ事務局
代表者 小泉正巳



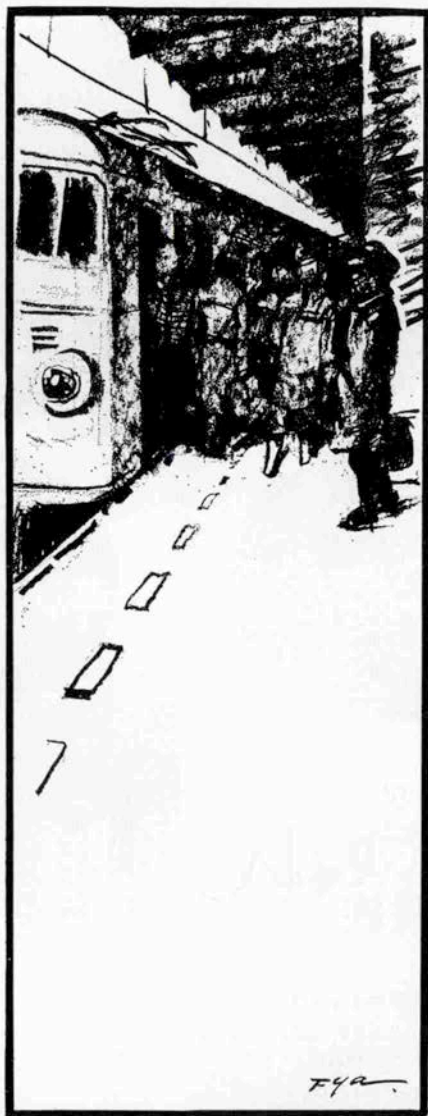
nightin
おしゃべり
貴族

神戸市生田区中山手1丁目24ノ7
TEL 078 (241) 0980 (242) 1925
大和ナイトプラザBF
PM 6:00~PM12:00

夜に咲く薔薇は
あまく、せつなく
華麗な香りを放つ
〈レディスタイム〉
女性のために捧げる
甘美なおしゃべり貴族
のひとつときは（午後8時〜12時）
一輪の薔薇〈指名制〉
との出会いから始まる

播州路

福元 早夫 え・山本 文彦



冬子は雪の降るさむい日に生まれた。母は嫁いでから二年目に子供を生んだ。女の子だった。それが冬子だった。

母の嫁ぎ先は、辺鄙な山間の一軒屋だった。母をたずねて、ぼくは深い山道を何回か歩いたことがある。山を越え、谷をいくつものりこえていかなければならなかった。谷間の一軒屋の灯がみえるころ、日はとっぷり暮れていた。ちかづいていくと、台所のうす明かりの中に母の気配がする。

「かあちゃん……」

と、ぼくは声をこらして呼んだ。奥の座敷に、母の新

しい家族たちの声がきこえる。

かあちゃん、と泣きこえていいながら忍びよっていき、母のモンペをしっかりとつかんだ。すると母はとびあがっておどろき、すぐさま血相を変えた。

ぼくの襟首をつかんで外へつれだし、母は怒った。こへ来てはいけない、あたしは、もうあなたの母ちゃんじゃなか、約束したじゃなか、姉弟じゃと、よかか、わかったか、と、周囲に気をくばりながらきびしい声でいった。それから、祖母ちゃんのところへ帰えれ、と、闇にむかってぼくの背中を押した。

母に追いはらわれていきました道をとぼとぼと歩きなが

ら、ぼくは泣いた。なきながら母をにくんだ。だけど、なぜか憎みとおすことができない。だからぼくは自分をいじめた。おいどんなんか生まれてこんぼうがよかつたときゃ、といじめ、いじめておいてまた爆発的に泣いてしまった。

闇の中で山彦がないた。そのせつないなき声をききなから、ぼくは、南太平洋で戦死したという、父のことを憶んだ。父さえ生きていれば、こんな境遇におちこむことはなかったのだ。父ちゃん、なぜ勝手に死んだ……。

ぼくは闇にむかって叫んだ。だけど、死んだ人間をうらんだとて、いまさらどうしようもなかった。それに、父の記憶はなにもなかった。父を憶むいっさいの手がかりをぼくはもっていなかった。

深い山道を歩きながら、ふいにぼくは、死んでやろう、とかがえた。あの高い木の、頑丈な枝に首を吊つて、母を困らせてやろう、と真剣に思いつめた。だけど、そんな勇氣など、あるはずがなかった。

母は、冬子を産むために里帰りしてきた。そのひと月ちかくの間、ぼくはとてもしあわせだった。かつての、母との生活がよみがえってきたのだ。こころうきうき、ぼくは、はしゃいだ。ちようど、小学校一年生だった。以前にくらべ、母のぼくに対する態度は、あたたかくはなかった。だけど、そんなことなど、どうでもよかった。ただ、目のとどくところに、母がいてさえくれれば、それでぼくは、とつてもこころが安まるのだった。

母が産気づくと、夜空に雪が舞いはじめた。正月のちがらだった。祖父は囲炉裏にどっさり薪を燃やし、家じゆうをあたたためた。奥の部屋で、冬子とたたかっているらしい母の、苦しませのうめき声がきこえる。祖母はかまどに湯をいっはいたいている。ぼくは祖父の膝にだかれて、目をじっとしていた。いろりの炎で、身体じゆうが燃えているみたいだ。

母がふりしぼるような最後のうめき声をあげた。囲炉

裏の炎が、音をたててはじけあつた。祖父がぼくを抱いた腕に力をこめた。

と、そのとき、冬子が叫び声をあげた。麦わらぶきのわが家をゆるがすような鋭い泣きごえをあげながら、ちいさな肉の塊みたいな冬子が、突然、ぼくのまえにあらわれた。

ぼくは、母の、身もこころも、さらに、魂をも絞りだすようなうめき声をききながら、すべてを了解したような気持になった。

そしてさらに、ながい沈黙とふかい静寂を突如にうちやぶってあらわれた冬子の、胸をつき刺すようなすどい叫び声をきいていながら、ぼくは、自分を悟りどつた。母が、嫁ぎ先へ勝手にきてはいけない、といったこと。あたしはあんたの母ちゃんじゃなくなつた、といったこと。これからは母子じゃなくて姉弟なのだ、といったこと。

それらのすべてをぼくは了解し、自分の立場を理解しなければならぬ、といった、せつばつまつた気持になつたのだ。

ぼくはぐつと奥歯をかねて涙をのんだ。無性にさびしく、やるせなかつた。

ひと月ちかくがあつという間にすぎた。母は冬子を抱いて、隣村へかえっていった。

ぼくもふたたび、祖父母たちとの生活にもどつていった。だけどそれは、以前のそれとは大きく異つていた。

ぼくはもう、母を恋しがったり、影を追いかけたりしなかつた。

さむい冬が明けて春がきた。冬子は順調にそだつていった。

暑い夏の季節がやってきた。雪の降る夜に生まれた冬子にとつて、南国の強烈な太陽との、はじめてのであいがやつてきたのだ。

うだるようなあつたい夏。それは試練ともいえた。大人でもまいつてしまふ夏に、おさない冬子はまけてしまつ

たのだった。

重い病にかかった。意識不明を、一週間ちかくつづけた。日本脳炎らしかった。それに、運のわるいことに、小児マヒを併発していたのだ。

医者首をよこにふりつづけた。冬子は、不明な意識のなかで、病とたたかいつづけた。両親は、付きつきりで、両手を合わせて祈りつづけた。

奇跡だ、といって、医者は目をまるくした。冬子は、とうとう病にうち勝ったのだ。重苦しいふたつの病の、まっ黒いマントを自力で払いのけ、ふたたび鋭いさびび声をあげはじめたのである。ちようど、台風の夜だった。外は、風速四〇メートルの嵐だった。

冬子の部屋は、こじんまりとしていて、よく整理されている。机のまえの壁に、『努力目標』が貼りつけられている。二杯目のコーヒースナックをすすりながら、ぼくは読んでいった。

自分を大事にすること（それは他人を大事にすることと同じことである）

他人に呼ばれたら、はい、と元気な声でこたえること
耐えること（ぐっと鋼を噛む思いで）

故郷を忘れぬこと

冬子らしかった。と同時に、それらのことばは、ぼくのものでもあった。彼女がはじめて播州へきたとき、ぼくは自分自身を語った。中学を卒業して、工場で大人になるまでの、ぼく自身のころの青春を語ったわけだ。

鉄をつくる、昼夜三交替の現場の仕事はつらかった。耐えなければならなかった。夜勤はねむい。汗と油に汚れて、くたくたに疲れて、自分をぼろ布のように感じた。耐えるそのずつとむこうに、故郷が光っていた。まぶたのうらがわに、母がすみついていていた。

しかし、冬子の知らない秘密の世界、それには決してふれなかつた。そこは、彼女には、何らかかわりのない世界だった。

「がんばっちゃうな」

と、貼り紙の方に顎をしゃくりながら、ぼくは励ますような、それでいてちよっぴりひやかすようないいかたをした。

「まあね」

と、はずかしそうに冬子がいった。

「がんばらなくちゃあ」

とぼくがいった。

「でも……」

と、努力目標を目で追いかけるながら冬子がいった。

「でも、むずかしいことやわ。真似でもいい、そのうち慣れて、自分のものになるかも、って思っているけど……」

というとき、冬子はちいさく笑いながら、自信なさそうに小首をかしげてみせた。

乳児期におもい病にひきずりこまれた冬子は、その後、病弱な体質を否応なくされた。瀕死の世界に片足をつこんだせいで、右の足をわるくした。ころなしかびっこをひく。しかしそれは、よほど注意して観ないとわからない。

ときどき冬子は、顔色が急にあおざめ、その場にしゃがみこんで、自分で自分をしっかりかかえこむことがある。見ていられないくらいにかわいそうだ。だけど、だれも手をかすことはできない。彼女は自分に耐え、そしてたたかわなければならぬのだ。

「……がんばらなくちゃ」

と、ぼくはまた同じことをいった。

「そうね、がんばらなくちゃね」

と、明かるい声で冬子がいった。

彼女は病の影を背負い、おまけに、足にまでひきずって、それでも強く生きつづけなければならぬのだ。がんばる以外にない。

「修一からは、たまには手紙がくるんか」

ぼくは話題をかえた。



「修ちゃんはだめね、電話もくれへんのよ。お母さんもぼやいていた。故郷にもさっぱり音沙汰なしなんだって」

「男の子やからなあ、遊ぶことがいっぱいあるから」

「でも、たまには手紙をかくべきよ。心配してるんだから」

冬子には弟がいる。三歳下の修一である。修一は高校を卒業して、名古屋の自動車工場ではたらきはじめた。その下に、高校生の妹、美由紀がいる。

冬子は、ある意味では、弟や妹の、犠牲のようなかたちだった。中学を卒業すると同時に、女工として工場ではたらかなければならなかった。月々の給料のおおかたを、送金して家計をたすけなければならなかったのだ。だから、修一や美由紀が、人並みに高校へ進学できたのは、彼女のおかげだ、といっても過言ではないはずである。

冬子は病弱な体質を強いられたかわりに、意志がつよかった。いちどころだと決めこんだら、徹底してつらぬきとおすのだ。それに、なにかにつけて、自分のことを考えるまえに、他人のことに気を配るところがあったのだ。

それにしても、と、すでに大人になった冬子をまえにして、それでもなおぼくは思う。彼女が中学を卒業して播州の紡績工場への就職がきまったときのことをいまさらのこのように思いだしてしまふからだった。

あのとときぼくは、彼女の両親に腹をたてたのをいまでもはっきり憶えている。

たとえ生活が貧しくても、まだ子供こどもした冬子を、女工として遠い他所へ送りこむには、あまりにも早すぎるといふ気がしたからだった。ぼく自身の、決して楽しくなかったさまざまな経験が、彼女の前途にかさなつたからだった。

十五歳のとき、ぼくはぼくを育ててくれた二人の老人とわかれた。麦わら葺きのわが家のままで、今日までの長い年月、いろいろのお世話になりました。大変ありがとうございました、ご恩は一生忘れません、といって、深くかかと頭をさげた。

ポストンバッグをもって駅へと歩きはじめたぼくの背中に、祖父と祖母は、どんなことがあっても辛抱するように、とかわがるわがる叫んだ。ぼくは何回かふり返り、背伸びして手をふつた。むりに笑顔をつくつて、さようなら、いつまでもお元気で、と叫んだ。鋼を噛むような思いで、涙をぐつとこらえた。

冬子が生まれたことよつて、母と完全に離別れることのできたぼくは、それからの何年間かを、祖父父母のいちばん小さな息子としてそだてられた。きわめてきまわけよくつとめ、学校の勉強もけつしておろそかにはしなかつたし、農作業もすすんで手伝つた。そうすることが親孝行だと思つてがんばつたのである。

中学三年生になつてぼくは高校へ進学したい、といつた。より高度な勉強がしたい、というのではなく、ただ人並みに進学したかったのだ。だけど祖母が反対した。うちにはそんな余裕はない、というのだった。

小学生のときからやつてきたように、これから先もずっと、新聞配達をつづけるし、それに、日曜日は土方のアルバイトにいつて、学資はかせぐから、とぼくは頼みこんだ。だけど祖母は頭をたてにふらなかつた。

中学校卒業者が、金の玉子、といわれはじめた時代だった。日本の高度経済成長の過渡期、といわれていた。

ぼくは高校へいきたかつた。中卒者のだけがそうであるように、ぼくも、自分から好んで、金の玉子などに

はなりたくなかつた。でも、祖母がウンといわないことには、どうしようもなかつた。だからぼくは、金の玉子や高度経済成長をうらむことよつて、進学を断念した。祖母とわかれて、村の小さな駅から汽車にのつて、鹿兒島駅へいつた。その道程は、かつて、母とふたり、戦争へいつたときり帰つてこない父をさがして海へとむかつた道だった。汽車の窓から、ぼくは故郷を眺めつづけた。故郷を去つていかなければならない自分自身をながめつづけた。やもすると泣いてしまひそうになるので、ぼくは、さらば故郷、さらば故郷、と、こころの中でさげびつづけた。父や母も、何もかもおさらばだ。

駅前広場へいくと、県内のあちこちから集まつてきた中学卒業生が、まさに黒山のようにたかつていた。そのおびただしい学生服やセーラー服をみて、ぼくは自分が競市にだされた仔牛になつたような気がした。

じっさいぼくは、祖父につれられて仔牛の競市へ何回かいつたことがある。農村のあちこちの、暗い家畜小屋からひっぱりだされた仔牛たちが、広い競市場にまつ黒い波をつくつて揺れていた。澄んだ美しい目の仔牛たちは、やがて貨車に押しこまれ、関東や中部や関西へと送りだされていつた。

ぼくたちは就職先の地域別に座席を指定された。しばらくして発車のベルが鳴つた。するとそのベルを合図に、みんながいつせいに泣きはじめた。特別集団就職列車の窓から長々と手をさしだし、プラットホームの父や母や弟や妹の手へと乱れとんだ。

ぼくはじつと堪えていた。そのうちベルが止んだ。するとなんともいえない空白感におそわれ、すぐさまそれが、死んでしまいたいような孤独感、心臓をちぎられるような寂寥感にかわつた。車輦がガタツと揺れた。一瞬、ぼくは自分を見失つた。母がぼくの前から去つていつたあの日の、墜落感に襲われた。